

新たな図書館像（図書館ビジョン（仮称））の策定について

1 現状と課題

(1) 横浜市の動向

本市においてもいよいよ人口減少局面を迎え、生産年齢人口の減少、少子高齢化が更に進むと想定されています。これを踏まえ「横浜市中期計画 2022～2025」（以下「中期計画」という。）において、「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を基本戦略に掲げ、横浜に関わる様々な人・団体の皆様と共に、横浜の受け継ぐ多様な魅力を更に高め、「住みたい都市」「住み続けたい都市」「選ばれる都市」を目指し、市民生活の質と都市の活力の向上の好循環へつなげていくことを目指しています。

(2) 市民ニーズ

市民が図書館に求める環境・施設やサービスが多様化してきています。例えば、令和4年度に実施した市民アンケートで、魅力的な図書館にするために必要な環境・設備を尋ねたところ、未就学児の子育て世代の方（主な回答は、参考資料参照）は「子どもから大人まで談話しながら利用できる環境（64.8%）」や「子どもが遊べるスペース（66.2%）」の回答が多かった一方、ヨコハマeアンケートでは「静かに調べものや読書ができる環境（70.4%）」が多数でした。

(3) 公立図書館の動向

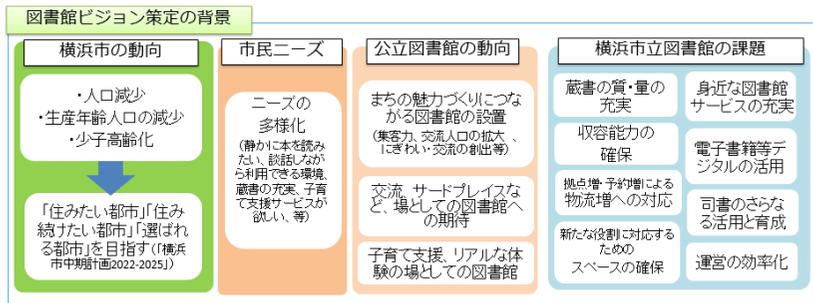
近年図書館には、資料の収集と提供だけでなく、幅広い役割が期待されるようになってきました。他自治体では、市民が気軽に集い、交流する「居場所」としての機能や、子どもの遊び場の併設など、様々な機能・スペースを併せ持つ例や、居心地よく豊かな時間が過ごせる「空間」づくり、誘客性や地域のにぎわい創出など、まちの魅力向上等に寄与する図書館が、相次いで設置されています。

(4) 横浜市立図書館の課題

市民ニーズが多様化し、図書館へ幅広い役割が期待されるなか、さらに多くの方に利用され、まちの魅力づくりにも資する図書館となるために、市立図書館の機能・役割を再定義することが必要です。また、実現に向けた取組を、施設・設備の魅力向上（老朽化に伴う補修・更新・修繕等、再整備や新たな役割に対応するためのスペースの確保）と、サービスの充実（これを担う司書のさらなる活用・育成）の観点から整理する必要があります。

また、予約冊数の増加・図書館サービス拡充に伴い増加傾向にある物流への対応、地域課題やニーズに沿った蔵書の質・量の充実を支える収容能力の確保、電子書籍ほかデジタルも活用し、身近な場所での読書機会の創出等にも取り組む必要があります。

これらを踏まえ、目指すべき図書館の姿や取組の方向性をお示しする図書館ビジョン（仮称）を令和5年度中に策定することとし、中期計画及び第4期横浜市教育振興基本計画にも明記しました。



2 図書館ビジョン（仮称）の視点

現状と課題を踏まえ、次の視点で図書館ビジョン（仮称）を検討していきます。

(1) 図書館ビジョン（仮称）検討の視点

○まちの魅力づくりに資する図書館の役割

住みたい・住み続けたいまちとなるために、図書館の役割を再定義します
(公立図書館の存在意義・強みを活かし、提供価値の最大化を追求)

○再整備の在り方と方向性

図書館が担うべき機能を発揮できるよう、必要な施設環境の整備、まちづくりの状況等を踏まえて、再整備の在り方と方向性を示します

○サービス充実に向けた取組の方向性

利便性向上に向けた、図書館サービスの充実の取組の方向性を示します

図書館を核とし、他の機能と融合することで、より多くの人々を惹きつける魅力的な“場”へ

(2) 基本理念：（「誰にとってどのような施設でありたいのか」や「大切にしている価値」など横浜市立図書館の目指す姿）

市民にとって

- ・乳幼児から高齢者まで、ライフステージに応じた使い方ができる
- ・新たな出会いやつながりが生まれる場所
- ・いろいろな場面・ライフステージで頼りになる場所
- ・ワクワクするところ、楽しく学べる場所
- ・気軽に立ち寄れるところ、居心地よい空間 など

地域・企業にとって

- ・図書館と組むと、ワクワクするような面白いことができる
- ・図書館と組むと、多世代にアプローチできる など

(3) 基本方針：（基本理念を具体化するための取組の方向性）

- ・次世代をはぐくみ、子育て生活を豊かなものにするサービス
- ・誰にとっても居心地の良い空間
- ・まち全体で市民を支える図書館、いつでもどこでもアクセスできる図書館
- ・市民の多様な学びや活動をつなぐプラットフォーム
- ・多様なパートナーと連携し、新たな価値創造を支援
- ・市民の主体的な学びを支える、幅広くバランスの良いコレクション、地域特性を踏まえたコレクション
- ・まちの魅力向上や賑わいづくりに貢献する施設
- ・持続可能な図書館、司書やボランティアの人材育成・確保 など

⇒これまでの市民アンケートの結果や引き続き実施する先行事例調査に加え、6月から7月に予定している市民ワークショップでの意見も踏まえて、検討を進めます。

3 令和5年度のスケジュール

6～7月 市民ワークショップ（6月11日 ウィリング横浜、6月18日 都筑区役所、6月24日 神奈川公会堂、7月1日 二俣川地域ケアプラザ）

7月 外部有識者からの意見聴取

年度後半 素案公表、市民意見公募、外部有識者からの意見聴取
原案策定・公表

【資料1】「横浜市中期計画 2022-2025」

戦略1 すべてのこどもたちの未来を創るまちづくり>政策6 豊かな学びの環境の充実

4 新たな図書館像の構築と市民の豊かな学びの環境の充実	主管局	教育委員会事務局、政策局
	市立図書館は知の拠点としての機能を果たすことに加え、地域の特色を踏まえて子育て支援や市民活動支援などの機能を融合し、市民の豊かな学びの環境を更に充実させるとともに、子育て世代をはじめとした全ての市民が居心地よく過ごせる場としての再整備の在り方を調査・検討し、ビジョンを策定します。第三次横浜市民読書活動推進計画を策定し、学校図書館の環境整備や市立図書館における電子書籍などデジタル資料の活用時にも取り組み、市民の豊かな読書活動を推進します。	
施策指標	市立図書館の再整備の在り方検討	
	直近の現状値	目標値
	-	令和4年度 調査・検討開始 令和5年度 ビジョン策定

【資料2】「第4期横浜市教育振興基本計画 2022-2025」

柱8 市民の豊かな学び

施策2 新たな図書館像の構築及び読書活動の推進

施策の目標・方向性

- 市立図書館が知の拠点としての機能を果たすことに加え、子育て世代をはじめとした全ての市民が居心地よく豊かな時間を過ごせるよう、老朽化が進む市立図書館の再整備の方向性を検討します。
- 「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」に基づき、乳幼児期から高齢期まで市民一人ひとりが読書に親しみ、楽しむことができる環境を整備するため、「横浜市民読書活動推進計画」を中心に、読書活動を推進する取組を実施します。

【資料3】 先行事例

図書館再整備事例として、他都市の図書館の調査・研究を進め、再整備手法（公有地の活用、民有地の活用、既存施設リニューアル）やコンセプトメイク、子ども・子育て支援の観点等からの聞き取り等を行いました。

令和4年度調査館：ゆいの森あらかわ（東京都荒川区／公有地・直営）、
石川県立図書館（金沢市／公有地・直営）、
大和市立図書館（大和市文化創造拠点シリウス）（公有地・指定管理）、
相模原市立橋本図書館（民有地・直営）、
海老名市立中央図書館（既存施設リニューアル・指定管理） など

【写真】

左上：海老名市立中央図書館「書店カウンター」
（出典：海老名市立中央図書館ホームページ）
右上：ゆいの森あらかわ「吉村昭記念文学館」
下：石川県立図書館（2枚）
「こどもエリア」「大閲覧空間」
（現地撮影写真）



-参考1-

参考資料

【資料4】 市民アンケート（調査項目：図書館利用状況・交通手段・図書館へのニーズ等）

1 子育て世代向けアンケート

- 実施時期：令和5年1月 回答数：2,233人
- 対象者：未就学児を持つ保護者
- 主な回答：（主な集計結果は裏面参照）
 - より魅力的な図書館にするために必要な環境・設備として、「子どもから大人まで談話しながら利用できる環境」（64.8%）や「子どもが遊べるスペース」（66.2%）の回答が多かった
 - 必要なサービス・機能として、「身近な場所での本の貸出・返却」（66.6%）や「子育て支援サービス（子育て相談・託児サービスなど）」（39.3%）が求められている

2 ヨコハマeアンケート

- 実施時期：令和4年11月、 回答数：1,335人
- 対象者：市内在住・在勤・在学の15歳以上の事前登録者
- 主な回答：
 - より魅力的な図書館にするために必要な環境・設備として、「静かに調べものや読書ができる環境」（70.4%）や「地域の情報を知ることができるコーナー」（31.6%）の回答が多かった
 - 必要なサービス・機能として、「所蔵資料（図書・雑誌・新聞）の充実」（63.6%）、「身近な場所で本の貸出・返却ができるサービスの充実」（50.1%）が求められている

3 団体利用者・ボランティア向けアンケート

- 実施時期：令和4年12月～令和5年1月、 回答数：405人
- 対象者：図書館利用登録団体・グループ、ボランティア
- 主な回答：
 - より魅力的な図書館にするために必要な環境・設備として、「静かに調べものや読書ができる環境」（57.0%）や「高齢者、障害者が利用しやすい設備や機器」（36.3%）の回答が多かった
 - 必要なサービス・機能として、「所蔵資料（図書・雑誌・新聞）の充実」（64.0%）、「身近な場所で本の貸出・返却ができるサービスの充実」（50.9%）が求められている

4 各アンケートにおける年代別構成比

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
子育て世代アンケート	3 0.1%	109 4.7%	1,378 61.8%	707 31.7%	29 1.3%	5 0.2%	2 0.1%	2,233 100.0%
ヨコハマeアンケート	1 0.1%	15 1.1%	78 5.8%	238 17.8%	384 28.8%	339 25.4%	280 21.0%	1,335 100.0%
団体・ボランティアアンケート	0 0.0%	13 3.2%	28 6.9%	76 18.8%	80 19.8%	120 29.6%	87 21.5%	405 無回答1名 100.0%

-参考2-

【資料5】「子育て世代向けアンケート」の主な結果（単純集計）

■実施概要

- ・実施期間：令和5年1月4日（水）から1月31日（火）
- ・回答者数：2,233人
- ・対象：未就学児を持つ保護者 ※やさしい日本語版アンケートフォームも用意

■回答状況

<年代別の回答者構成比>

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	総計
回答者総数 a	3	109	1378	707	29	5	2	(b) 2,233
a/b	0.1%	4.7%	61.8%	31.7%	1.3%	0.2%	0.1%	100.0%
うち、未利用者c	0	74	653	275	13	2	0	(d) 1,017
c/d	0.0%	7.3%	64.2%	27.0%	1.3%	0.2%	0.0%	100.0%

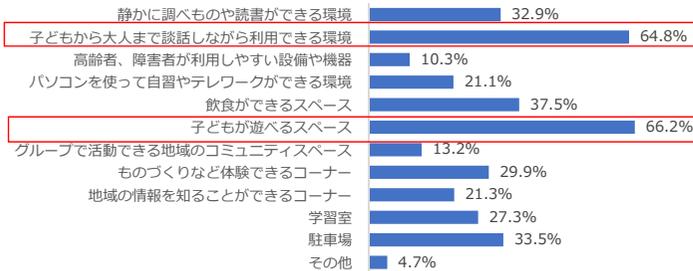
- ・回答者総数、未利用者のいずれも回答者の年齢は30歳～40歳代が90%以上
- ・回答者のうち、未利用者の回答が約45.5% (=d/b)

<子どもの年齢（回答者総数）>

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	総計
回答者	131	219	243	329	419	485	407	2,233
総数	5.9%	9.8%	10.9%	14.7%	18.8%	21.7%	18.2%	100%

■全体集計

Q より魅力的な図書館にするために必要な「環境・設備」（複数選択）

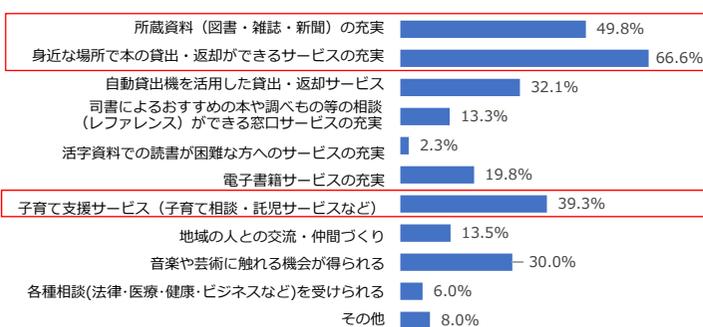


会話のできる環境、子どもが遊べるスペースの需要が高い

【参考：他の調査上位2項目】

- ヨコハマeアンケート
 - ・静かに調べものや読書ができる環境（70.4%）
 - ・地域の情報を知ることができるコーナー（31.6%）
- 団体利用者・ボランティア向け
 - ・静かに調べものや読書ができる環境（57.0%）
 - ・高齢者、障害者が利用しやすい設備や機器（36.3%）

Q より魅力的な図書館にするために必要な「サービス・機能」（複数選択可）



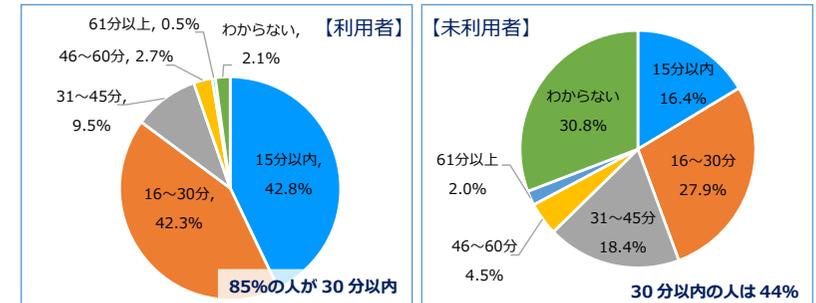
資料の充実や身近な場所でのサービス、子育て支援サービスの割合が高い

【参考：他の調査上位2項目】

- ヨコハマeアンケート
 - ・所蔵資料（図書・雑誌・新聞）の充実（63.6%）
 - ・身近な場所で本の貸出・返却ができるサービスの充実（50.1%）
- 団体利用者・ボランティア向け
 - ・所蔵資料（図書・雑誌・新聞）の充実（64.0%）
 - ・身近な場所で本の貸出・返却ができるサービスの充実（50.9%）

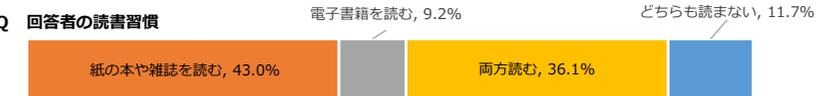
■利用者と未利用者の比較

Q 最寄りの図書館、取次所、移動図書館のステーションまでの所要時間



■未利用者の分析

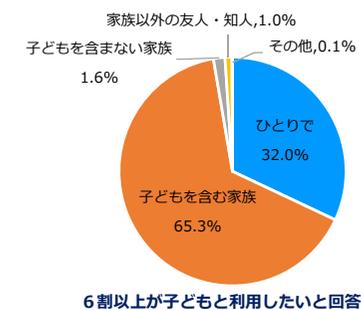
Q 回答者の読書習慣



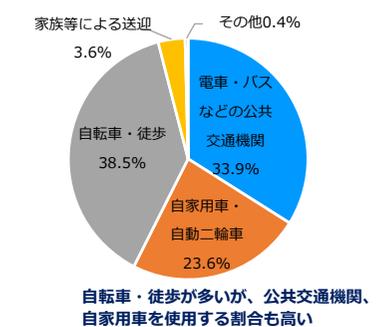
Q 子どもの読書習慣



Q 誰と利用したいか（複数回答）



Q 交通手段（複数回答）



Q 利用したい時間帯

